

ライフラインが止まりました。

「水道が止まりますよ。」
と放送があつたので、ペットボトルなどに、水をたくさん入れた。ちよつとづつ使つていた。ガスコンロでは、2種類のものをつくるときは大変だつた。

台風二十三号で思い出すことは、玄関に水が入つてきたことだ。山の木がたおねて、うちの前の橋にひっかかっていた。しばらくすると、家の前の通路に水が流れていった。水が玄関に入つてきそうになった。三人でくつぎを上にあげたり、くつ箱を移動させたりした。

「ゴ、ゴ、ゴォー。」

大きな川の音がして、もしかしたら家が流されてしまうのではないかとこおへなつた。

家の中には、お姉ちゃんとお兄ちゃんとお母さんだけ。お父さんとおばあちゃんはお母さんがつまらないように外に出ていた。お母さんは仕事に行つていて、まだ帰つてこない。

「こおいよー。」

と私が言うのと、
 っだいいじょうぶ^い。
 とお姉ちゃん^やんが言っ
 てくれた。ちよっ
 と安心
 した。

次の日、家の前には泥やいろいろな物が川
 上から流されて来て、歩けなかつた。倉庫の
 中にも泥水が混ざって、大きな木の枝が流れ
 込み、スキー板やストック、ドラム缶など、
 流されてしまった物もたくさんあつた。

近所の人たちにも、手伝つてもらい、一日
 中かかって片付けた。

あとから、新聞などを見ていて、台風二十
 三号で私の家よりすごい被害にあつた人もた
 くさんいたし、亡くなられた人もたくさんい
 たということを知つた。

台風二十三号はとてものがつたので、も
 う来ないでほしいと本気で思つた。